

第3回「現場からの医療刷新についての勉強会」リポート 鈴木寛・文科副大臣と近藤達也・PMDA理事長が講演



病院経営者や製薬企業を中心に約20人が参加



医師養成について語る鈴木文科副大臣



PMDA改革の陣頭指揮を執る近藤理事長

臨時国会の会期末を目前に控えた11月29日。弊社主催で第3回「現場からの医療刷新についての勉強会」を開催した。第1回から続けての登場となる鈴木寛・文科科学副大臣に加え、今回は医薬品医療機器総合機構(PMDA)理事長の近藤達也氏も登壇した。会場の東京・港区「料理王国アカデミーサロン」には医療関係者を中心に約20人の参加者が集った。

まずは近藤氏が登壇。「レギュラトリーサイエンス」に基づいたPMDA改革の進展について具体例を交えながら語った。トップリーダーが理念に基づいて行動する中で、日本の医薬品・医療機器をめぐる状況はどう変わりつつあるのか。その進展はこれまで誌面でもお伝えしてきたとおり。数値データを示しながら紡がれる近藤氏の言葉に参加者は聴き入った。理事長の真摯な努力とリーダーシップは今後どのような方向に向かうのか。弊社では今後も捕捉していきたい。

続いて鈴木氏が医師養成の在り方をテーマに講演。野党時代の民主党が掲げてきた政策や、戦後の医師養成体制を踏まえながら、持論を展開。教育と医療という鈴木氏の専門分野がクロスするテーマとあって熱のこもった内容となった。鈴木氏が理想とする医師養成の姿はボリュームのある資料と講演を通じて参加者にも十分伝わったことだろう。

講演後は講演者と参加者による恒例の質疑応答。政務の都合で中座することになった鈴木氏、次いで近藤氏の順に質問を受け付けた。鈴木氏には現場を持つ当事者ならではの質問が殺到。「貴重な意見」として受け止める姿勢が印象的だった。近藤氏には質問以外に製薬企業の姿勢を問う厳しい意見が出る一幕も。終了後は懇親の場が設けられ、参加者同士の情報交換が続いた。



鈴木氏に質問する太田照男・白澤病院理事長



(左から)土屋了介・癌研究会顧問、竜崇正・千葉県がんセンター前センター長、藤原研司・横浜労災病院名誉院長



(左から)与芝真彰・せんぼ東京高輪病院病院長、増山茂・東京医科大学病院渡航者医療センター医師



近藤氏と談笑する加藤脩・ノーベルファーマ薬事部部长



弊社編集長・鈴木による乾杯の発声



(左から)岡英二・CSLベリング経営企画・情報部マネジャー、本田宏・埼玉県済生会栗橋病院副院長



近藤氏と意見を交わす松本純夫・独立行政法人国立病院機構東京医療センター院長



亀田省吾・亀田クリニック院長